

第3回 岡崎市緑の基本計画策定委員会 議事録

日 時：令和元年10月9日（水） 10時00分～12時00分

場 所：岡崎市役所西庁舎5階501号室

出席者：

【検討委員】

今西委員長、松本副委員長、近藤委員、中川委員

オブザーバー参加： 三矢氏

【事務局】

靱井都市整備部長

公園緑地課：横山課長、高橋副課長、河合主任主査、高橋主事

(株)エイト日本技術開発：村山、北畠

議事内容は以下のとおり。

1. 開会

挨拶・資料確認（事務局）

2. 議事

2.1 前回会議への対応状況

【説明】

【質疑応答】

三矢オブザーバー：

公園愛護運営会の設立を進めているという話でしたが、愛護運営会の場合は既存の愛護会を廃止する場合があるわけで、公園愛護会のグラフにおいて愛護運営会はどのような扱いになっているのでしょうか。

事務局：

ここは純粋に愛護会のみで出しており、愛護運営会はまだ反映していません。

三矢オブザーバー：

とすると、愛護運営会が1個出来て愛護会が廃止されると1減少という事ですか。

事務局：

活動の団体数なのでそのようになりますがまだ4箇所あるので今はこのグラフに反映させるまでもないかな、と愛護会のほうだけで作成しております。

松本委員：

アクションプランの評価で完了・継続・継続＋とありますが、元々の△というのは無理という意味なのではないですか。要は中断というのではないのでしょうか。

時代背景や法制度が変わったりして、当初はアクションプランに位置づけたが必要な課題があって実現が出来なかった、今回は止めますみたいなものはないのでしょうか。完了と継続しかないで、アクションプランを加えてくるとある程度の整理も必要かと。継続＋だとボリュームアップという感じがするので、どちらかというに見直しのほうがいいのでは。とにかく評価を入れてもらってすごく良くなったな、とは思っています。

事務局：

現段階で中断というような評価はしていません。見直しという部分は新規計画にあたっては見直しが必要なものとして△に含んで考えているので、今のものから改めてというよりは見直してから変わるというものも含まれてしまっています。

松本委員：

参考資料-1 の図の配置が気になっていて、総合計画の図面に都市計画マスタープランの絵が入っているのですが、②は都市マスの絵なので都市マスのところに置いてほしいと思います。

文章では「下記のとおり2つの基本姿勢と4つの目標を掲げている」とありますが、下記ではなく上になってしまっている。本番の時は図の位置もチェックして下さい。

事務局：

申し訳ありません、修正いたします。

近藤委員：

緑地に関して小学校区で分けているということで、いろいろな形がありそれぞれに分けて頂いているのは、イメージが掴みやすくよかったなと思います。

ただ全体を単純に緑地のパーセント割合で見ってしまうと、たとえば学区によっては樹林などで緑が確保されているから公共の空地を確保する必要はない、それで0%なんかもある。山林で充分補っているとも言えます。そういう意味で順位付けされているのはイメージが良くない気がします。それぞれの小学校区に合わせた取り組みをし、それぞれに特徴のある緑地の使い方があることで教育に生かせるような感じになっていくのかなと思います。ただこの資料が数字での順位付けみたいなイメージにならないようにしてもらいたいです。

事務局：

今後策定する中で示し方は考えていきたいと思っています。

今西委員長：

前回ご指摘のあった意見に関してはよろしかったでしょうか、中川委員。

中川委員：

そこは大丈夫です。資料-1 内 No.16 の高取委員が指摘されていた「基本目標 5 緑を介して人と人がつながるまちづくり」に関して△評価が多くなっているという部分で、これについては資料のどの部分を見ればよいでしょうか。私からすると△評価が多かったから今後こうしたほうが良い、というような書き方のほうが分かりやすいと思うのですが。

事務局：

今後の市民協働の改善点についてご意見を頂いている部分ですが、前回のご指摘を頂いた上で、今回アクションプランのほうの評価は参考資料-2 の中で改めて区分しております。今後どうしていくかという所は今から策定していく方向性に関わってくると思いますので、今日の議題のほうで対応案として書いています。

今西委員長：

参考資料-1 について策定年度は分かるのですが、いつまでの計画かというのをどこかに落とし込んでほしいです。

参考資料-2 について先程松本委員がおっしゃられたように継続+ということは見直しということなので、足し算も引き算もあって然るべきだし難しければその中のある部分は精査しながら今の社会情勢・財政状況を見ながら重点化してやっていきますよと。だけどこの後については今の背景からしたら少しマイナスしますよ、というような事の形が△だと思います。その点氣をつけてほしいです。

参考資料-3 は細かいデータを整理して頂いて良いと思いますが、並べると序列に見えてしまい見た人が自分の所はどこかなという風になってしまう恐れがある。取り扱いに氣をつけたほうが良いと思います。ただし資料としては大事なところなので伝えて頂ければ良いと思いますし、それぞれの学区での特徴的なポイントがどこにあるのかというところを少し分かりやすくしたほうがいいのではないかと。ただ数字での表現だけでなく、P. 3 に示しているようなそれぞれの特徴がわかったほうが資料としてはいいかなという氣がしました。

2.2 緑の基本計画策定における方向性と課題について

【説明】

【質疑応答】

三矢オブザーバー：

3 点あって、これは些末な話なんですけど資料-1 で 3 ページ目 18 番に三矢さんの話があって、第 3 回の方向性～（資料-1）とありますが、これは正確には資料-2 ですよ。これですっともやもやしてたので。資料-2 だと意味が通じます。

事務局：

申し訳ありません、修正させていただきます。

三矢オブザーバー：

2 点目として方向性 1 に持続可能な緑の確保という話があります。維持管理コストがすごく大変で昔作ったものが大変だということなのですが、先程の説明だと統廃合みたいなものも含めてという話がある。これは管理する対象（＝公共の緑地、公園）を減らすということもあるよという解釈でよろしいのでしょうか。

事務局：

そういった点も今後考えていく必要があるかなというところで、それをどうこの計画に反映させていくかというところですね。実際に手が回りきらないところがあることと、現状統廃合をやっている自治体もあるので、そういったことを岡崎市のほうでどう考えていくかというところは課題かなと思います。

三矢オブザーバー：

バランスというか、現状管理すべき対象の緑地なりがあってどんどん老朽化していくと大変だという話がある。さらに今後人口が減るかもしれないということも考えると満遍なくやるとひとつひとつの管理を下げていくしかない。まあ一部公民提携とかで多少収益を上げたということはあるかもしれないけれども、全体からするとごく一部の話だと思います。理屈で考えると、管理する対象面積を減らさざるを得ないと考えないとバランスが取れないのではないかなと思います。

先ほど事務局の口頭では統廃合を含めたという説明がありましたが、ここ（資料）での表現ではややトーンダウンというか、リニューアルしたいとかなるべく市民の皆さんにやさしい感じの事が書いてあるし、発言の中では統廃合を含めて考えていきますみたいな事があるので、どこらへんが現実的なのかという疑問、問題提起があります。

3 点目、一番言いたいことですが、方向性 4 のコミュニティ形成という言葉があります。これは自分の中でも答えがあるわけじゃなくて発言するんですが、前回の公園愛護運営会といったところで地域の皆さんに豊かに公園を使っていきましょうみたいな話を持って行って、課題というふううまくいかないことが多々あるわけですが、既存の愛護会の担い手の大きな勢力でもある老人会自体が疲弊している。この愛護会自体もそもそも解散するなどいろんな状況がある中で地縁組織の弱体化みたいな話を岡崎市でも着実に進んでいて、この話とコミュニティ形成みたいなところはたぶんつながってくるのではないかなと思います。

たとえば最近籠田公園がリニューアルオープンし、人気で評価の高い公園として活用されています。その中で近隣の町内の皆さんが従来の町内会の枠を超えて繋がりつつあるということがあって、それはあくまでごく一部の話ではあるんですが、自治の再編みたいなものが進みつつある。ただ一方で自治の話になると、高齢者が増加して従来の町内会組織はとても維持して

いけない、役割を担えないという話も出てきている。ちょっと踏み込むのも危ないんですけども。そういった地域の自治、あるいは格好良く言えばエリアマネジメントみたいなものを、今回せっかく小学校区などで緑のあり方をデータ化して頂いたので、こういった部分も含めて地域の面的な緑をより豊かにしつつ、弱っている地縁組織、コミュニティそのものを立て直していくことが重なっていかないかなという思いがある。そういう視点で触れられるといいなという期待を持っています。

事務局：

今の提案ですが緑の事に関わらずたとえば景観であったりいづれにせよ本市の施策はかなりの部分を地縁組織に背負わせているというか、福祉にしてもそうになってしまっています。三矢さんの今回のお話は緑に関わらず非常に大きな問題だなという認識はあります。その上で、この緑の基本計画ではどのぐらいの議論で済むのかということなのかと思っていますので、おいおい皆さんのお知恵をお借りできればと思います。

今西委員長：

まさしく公園も先程の話と比べると、公園自体の再編があったりだとかは然るべき流れだと思っています。それを行政だけで今まで担ってきたものが担えないというところで、愛護会だとか小さい単位の担い手に頼ってきたのですが、エリアマネジメントだとかもう少し広い地域での担い手づくりだとか、それを作っていくためにはどう支援し運用していくだとかが次の課題になっていくだろうという気は私もしています。どう踏み込んで表現していくかというところは難しいですが、そのあたりまで見据えた中で考えていかななくてはいけないなと思っています。非確定なのですがすいません。

三矢オブザーバー：

おっしゃるとおりで、ここでそんなにいきなりガーッといくつもりはなくて。岡崎市全体のコミュニティの再建みたいな大きなテーマがありますが、コミュニティ再建を推進していく上でのツールというかアプローチとして緑をどうするみたいな話は、意外と重要な鍵になりそうだな、という。期待を込めてというのはそういう意味です。

近藤委員：

まとめて頂いたこちらの課題を見るとどれも関連してくるような話にはなるので、最初に何を目指すのかが来ないとそれはどちらに振るのかという話になってきてしまうのかなと感じます。先程説明の中で、緑によって都市としての魅力をあげていくという緑の役割についての言葉があったと思いますが、それをまず念頭におき緑地計画でその緑があることにより何に役に立ってどうコミュニティに関わっていくのかという。緑がまず中心にあることを知らせ、その緑があることで都市が良くなっていくというところを大前提で伝え、福祉や他の分野でもコミュニティの再建にしてもいろんな課題があるので、今ここで議論しなければならないのが緑

を中心にして都市をどう作っていくかを考えますということをまとめるべきではないかと思っています。

方向に分けると4タイプに分かれるわけで、持続可能にさせるにはコミュニティの再建だとか関わってくるし、歴史的価値のあるものが存在していてそこを重点的にやらなければならない場所と、森林が全体を覆っていて維持管理とかそれぞれの課題が違うので、それを先程の資料で分けていただいたそれぞれの学区の特徴に持っていけるのではないかと思います。全体に平等にやりましょうというよりは、使われていない遊具を撤去し自然に返すぐらいでもいいのかなと思い、その選択をするのに最初に緑によって都市の魅力をあげていくというのがあり、それぞれの施策の落とし込みをしていくと分かりやすいのかなと思います。全てに関連してくるので、この地域は重点的にこうしているというのが分かりやすいのではないかと思います。

事務局：

今の具体的なものがあって順々に個別に落としていくという、基本計画でどこまで具体的に細かいところまで書くかというのは別として、どのような計画を作っていくかという方向性は基本方針や市内の緑の将来像というようなこととして次の委員会から進めていこうかとは思っていたのですが。

緑のまちづくりに関する新たな方向性として4つあげさせて頂いたのですが、今の話だと逆に緑の街づくりがそもそも何なのかというのが更に上にあるって、方向性があるってこのあとの基本方針だとか移行していくという形にしたほうがいい、というご意見でよろしいでしょうか。

近藤委員：

はい、そうです。

今回の資料では具体的なことがたくさん乗せられていますが、今回何を指してこれがあるのか、コンセプトの部分が資料を読んでいると分かりづらいので、最初にそれを決めてほしい。それを伝える何かがあって落とし込んでいるという詰め方のほうが一般的に見ても分かりやすいのかなと思います。緑に関わっているとあって当たり前だと思うかもしれませんが、関わっていない人から見ると「こんな手間のかかることは止めればいい、別の使い方をすればいい」という方向にいつてしまいがちなので、ここでは本当に、緑があることでこんなに都市・環境が豊かになってというところを強調するところから施策に繋がっていくのかなと。

今西委員長：

方向性というのは私も最初説明を受けたときに普通は理念だとか将来像だとか基本方針という次回にやるものがあってそこから具体的に入っていくのではないかと思います、そこにいく前にもう一度前提条件として間違った方向に行かないよう見定めるための整理をしているという説明を受けました。なので、逆に非常に丁寧にやっているのではないかと思います。

ひょっとしたら方向性1〜4が基本方針になるかもしれないというイメージで私はいますが、そんな感じでしょうか。非常に私も今回分かりにくかった部分があります。

事務局：

実際にこういったことを加味して次回緑の将来像ですとか先程近藤委員がおっしゃられた緑の持っている機能、この事があってこうだという現行計画でも書いてはいるのですが、そこを掴んでやっていかないと先程おっしゃられたような、落ち葉があって邪魔でこんな木はいらないとかいうことにもなるので、そこを深めて落とし込んでいこうとは思っています。いま委員長におっしゃって頂いたように考えていく上でのベースが間違っていないかとか足りないとかがあるといけないので、今回ご意見頂きたいなと思い資料を作っています。

事務局：

現行計画で計画理念が市民と自然と歴史が育む緑の文化都市というのがあり、こういったものが先程の何を指すのという話のことなのかなと思います。現行計画はその下に基本目標・基本方針というセットが作ってありますが、その現行のものに対してどんな変化が今求められているのかというのを一度揉んで頂き、それを踏まえた上で、仮に方向性として今4つありますが委員長がおっしゃられたようにこの方向性で本当にいいのかという部分を見ていただきたい。今改訂という前提がありますので、あくまでも現行計画と比較した時に成果としてどうなっているということも確認させて頂きましたが、議論の進め方としていきなり方向性なのかとおっしゃられるのも御尤もだと思いますし、これでいいのかどうか皆さんの中で揉んで頂きたいです。

委員長がおっしゃられたように私も若干違和感があったのですが、ここで少し時間をかけたほうが後で結果的により良いものになるのかな、とこのようなやり方を今はさせて頂いています。

松本委員：

非常にわかりづらいところがあって、そういう意味では4ページ以降はいらないのではないのでしょうか。これがあるので混乱してしまって、本来は現計画の基本目標・基本方針は基本理念があってこそこれが出てくるのが、今の方向性に対して結びつけてしまったので全然わからないですよ。本来なら方向性が出て課題が出て基本理念があって、その上で基本方針・基本目標・基本方針が来るんですね。それと現計画の関連を見せてくればわかったのですが、その間がないので方向性の中で無理やり結びつけているから分からなくなったようなものです。そういう意味では4ページ以降無視していいということですかね。

というのを前提で方向性と課題というのをお話させていただきます。

現計画の方向性というのは緑の活用といいますか緑の意義というのでしょうかね。端的にまとめるとまずは環境、歴史文化、そして公園。さらに協働という風な切り口だったと思います。それに対してコンパクト化が必要だよ、あるいは防災や生物多様性が必要だよ、あるいは公民連携の視点というような新たな観点として入ってきた。

で、次の方向性で見たら1番目、まずこれは端的にいうとまず最初キャップなんです。ど

んどん増やすわけじゃないよと。お金ももう限られていて持続可能とかそういう話ではなく、要は維持管理をどうするかという。

二番目が環境防災です。もともと環境というのがあったので、環境プラス防災にしました。

三番目の方向性3が歴史と文化、あと公園をまとめました。それと最後が協働。そういう組代わりと読めるんですが、そうすると流れがよくわからない。どうしてそれが出てきたのか。そうすると本来どうすべきかという対案が必要なのですが、それがちょっと出てこないののでどうしようかなと考えてます。

方向性としては間違っていないと思いますが、新たな視点を入れながらこういう方向でやっていきます、というのがひとつ。つまり言いたいのは、元々の方向性に対して新たな観点があり、新しく出た方向性に対してのストーリーがよくわからない。もう少しストーリーをつけてほしいというのが一点です。あと言葉的なのですがそれぞれの方向性が背反になってないかなという気がしまして、必ずしも背反になっていなくてもいいのですが、いわゆる積集合になっている気がします。例えば持続可能という言葉って色んな意味で維持管理が出来るだけではないのですよね。多面的な機能を発揮してこそ持続可能だし、魅力が出来て間接的に緑の価値が共有されてこそ持続可能だし。あるいは一番下のコミュニティの形成があってこそ持続可能だと思うので、実は持続可能な緑というのは全部包含してしまっているなという気がします。

二番目の多面的な機能という意味では、三番目の魅力形成も多面的な機能の一つだと思います。特に具体的な目で見ると乙川とか伊賀川の桜並木で、緑の魅力ある街づくりを継続します、これは多面的な機能の一つ。あるいは公園と緑のふれあいの場所、これもまさにそうです。それぞれが背反になっているのではなく包含関係になっている感じがしています。ただそれを言葉尻はともあれ二番目は環境防災で三番目は歴史文化だなと読み換えたのですが、現計画の方向性のほうがすっきりしていたのではという感じがしています。

もう一つ言うと多面的な機能でという意味では先程から三矢さんも言われていましたが、協働によって緑を守るのか、緑をネタに協働の姿勢をはぐくむのか、これはだいぶ違うなと思ってまして。どちらにするのかな。要は維持管理のために協働してみましようとかではなく、こんないい緑があるからこの緑のために皆さん協働の形成が出来てきますみたいにするのか。そこが目的と手段で逆になるので、どちらにするのかなと思いました。緑をネタにみんなでやってみようという事であればそれも一つの機能かなと思いますし、維持管理のために協働をやるというのであれば協働を別に出さなければならないと思います。

事務局：

どちらにしてもこれはP. 2がキーになる部分なのですよ。

松本委員：

そうです。もう一つ言うと方向性というのはやはり必要ですよ。前もって定めておきたいということです。この後に理念が出てきて、それに対して基本目標・基本方針が出てくるのですよね。方向性に対しての課題なのです。ちょっとこういう作り方に慣れていないため、ちょ

っと違和感があって本当にこういうのが必要なのかどうかともややもやと思っています。

事務局：

そういった意味では次回のところで理念などが議論となってくるのですが、そもそも現行計画の理念であったり基本方針であったりというものを変える必要があるのかどうかという素材だにご理解頂き、例えば今の理念は今のままでいいのではないかということなのかもしれないし、その理念のままだとコミュニティの形成のために緑が一肌脱がなくてはいけないというようなところが弱いので、もう少しそこは置き換えたほうがいいのではという行きつ戻りつになるかもしれませんが今日のところは次回に向けて皆さんにもう一度、今の計画を見ていただくための問題提起というように考えて頂ければと思います。いま松本委員がおっしゃって頂いたように、どうしようという事よりもたくさん言って頂いたほうが我々も整理しやすいと思っています。

今西委員長：

P. 2の左側の現行計画で4つの方向性を持っていて、その中から基本目標を5つにまとめあげましたという形ですね。それに中央赤字のところが今回いろいろな状況が変わりましたよね、プラスアルファが必要になりますよねと整理した中で次の方向性、前回と今回の違いは踏襲するものは踏襲していますよ、と文言の繋がりは兎も角として方向性4つにまとめましたよ、ですが方向性はいくつあっても良いわけですし最終的には基本目標がどうアウトプットされてくるのかというところで次の会議の時にどういう風にするべきかなとは思っています。

今回一番気にしてほしいのは中央赤字のところがこの項目だけ・この表現でいいのか一番おさええていかななくてはならないことだと思います。そういった意味で一番上には立地適正化計画の関係もありますし当然上位計画もありますよ、というのがわかります。

二つ目が緑の基本計画の役割とありますが緑の役割は何も変わらないわけですし、変わったとしたら管理の方針をきちんと書くことぐらいなわけで、基本計画の役割ではなく緑そのものの機能だと拡大したというよりも元々あったわけですから、それを重点化するなりそういうことかなという気がしました。そういうところから次の方向性がいろいろ出てきてもいいかなと思います。ただ今回の方向性の表現については前回の方向性を踏襲するべきものは踏襲した内容にはなっているなと思います。

確かに後ろの資料がたくさんあって同じようなことが書いてありどこを見ていいのかわからないので、2、3ページで見れば全体がつかめるかなという気がしました。

ご意見頂きましたので少し事務局で再整理をするなりして次の理念だとか将来像、基本方針につなげるような形にして次回提示をして頂ければと思います。

松本委員：

そういう意味では現計画の今の方向性は良いと思っています。環境、これ自然を含めて生物多

様性の視点がはいってくるのだらうなと思うんですね。一方で岡崎ならではの歴史文化があってそこにコミュニティなどがはいってくるのですが、やっぱりここは生かしたいと。と共にやっぱり公園というのも外せないと思いますので、さらにオープンスペースとかもはいってくると思いますし、そこに入っていないのが防災性の話が出てくると思うのであとコンパクト化をうまく散りばめて方向性としてまとめれば良いかなと思います。

あとは財源ですね。ただそれに関して持続可能性という言葉は相応しくないと思っているのでそこは注意してほしい。コミュニティのところはどれぐらい出すのか控えるのか、こういった方向だとすごく理解しやすいかなと思います。

また緑行政について。これはなんだかんだ言っても縦割りで、せっかく計画してもよそでできられてしまったりする。なので市民協働も大事ですが庁舎内の協働も大事かなと、そこをきちんと入れていただけたらいいかなと思います。

今西委員長：

計画をつくる中では河川・農地・森林だとか道路だとか、さまざまな分野の緑があるわけなので。その連携がうまく出来るように計画づくりをして、最後はそこがチェック出来るような機能・体制をつくっていくことが大事かなと思います。

三矢オブザーバー：

おっしゃられた通りなのですが方向性一番の持続可能、要するに現行計画では3番目の将来的な人口・人間社会の事も包含してとしては持続可能なキーワードとして扱われているが、いざ右側にきた時にお金が足らないからだとか、小さい話で持続可能なんて言葉が使われてもちょっと違和感があるので、どちらかという元々の解釈に戻してもらったほうがいいのではないのでしょうか。今どきやっぱりSDGsみたいな持続可能な社会をどう作っていくかみたいな話が大きな冠としても今出てきているので、その話とこの話が合わないのご配慮頂いたほうがいいかなと思います。

そうすると確かに現行のほうがいいですねみたいな。そうすると繰り返しですけども、実際に岡崎市が運営会みたいところで新しい地域への関わりをやり始めたと、それに向かって我々もNPOとして地域へ接触する中でよりいっそう地域社会の疲弊が明らかになってきた。私にとっては社会環境の変化だと重々分かってきたので、そこは考慮して、これからの緑情勢を考えますみたいな、中央部分の赤字のところ、社会環境の変化にもこのようなキーワードを入れてもらえたら嬉しいです。

事務局：

中央のキーワードで新たな観点なのか視点なのか、少し不足分というかせっかく今まであぶりだして来たのでもう少し書きようがあるのではという気がしますね。

近藤委員：

現行のものから新しい形にもってきた時に、今足りない部分として私なりに感じるのは、緑の教育の面に力が入っていないのではと思っています。緑が都市としての魅力をというのを先に持ってきたと言ったのはそれが伝わっていないのではないかという危機感を持っていて、それをどう伝えていくかの方法の一つとして教育はすごく大事です。生物多様性という意味での環境教育はいろいろ行政も取り組んでいて、公園緑地課に限らず取り組まれているかもしれないのですが、都市における緑地の必要性、これは防災の面でもそうなのですが、環境を維持していったりコミュニティを形成したりというものの根幹に緑があること、という所をきちんと伝えられるような内容になっているといいなと思いました。

事務局：

その点で教えて頂きたいのは、学校の現場において今から 15～20 年前ぐらいですと、緑化コンクールだとかフラワーコンテストとか、各学校がそういったコンクールに応募するような形の中で子供たちが緑だったりお花だったりを自分たちで関わった時代がありましたよね、まだやられているとは思いますが。岡崎市の学校の現場では下火になってしまっている部分があって、他でこんな形で続いているとか少しヒントがあるのかなと思ったのですけれども、ご存知でしたら教えて頂けたらと思います。

近藤委員：

今私が関わっている豊洲の公園の地域の活動からしますと、豊洲西小学校というところでは小学校で花壇活動をするというのが盛んに行われていまして、盛んに行われているという一番の理由は地域の年配の方とかで好きな方が居て、教えに行っているところに支えられているらしいです。学校に教えに行っていて定期的な活動として定着されている、その他にコミュニティガーデンが兼帯していて植栽をきっかけで人が集まるということで行くつかのグループが 20 も 30 もあるのですが、という仕組みが定着しています。

事務局：

それは学校に教えに行くことで、それが地域の活動になってきてそれがまた広がるという形でしょうか。

近藤委員：

学校で活動することで、子供達だけでなく親御さんが関わるという子供会以外の集まりとして、植物をきっかけに人が集まる場として利用されているようです。今までの既存グループにあまり過度に期待してしまうと先程の三矢委員の話ではないですが疲弊しているところに更に仕事を増やすみたいな持っていく方よりも、新しい活動の場としていろいろな動きが提案しやすい形にこちらがサポート出来るといいのかなと思います。それは緑の教育をしなければいけないとか、今の小学校の教育自体がどうしても受験だったり、すぐ結果が出るものに偏りがちな

ので、園芸だったり環境教育というのは生きていくための最低限の知識として皆さんに知っておいてもらうところから始まってほしい教育で、それがあから就職に有利になるとかそういう経験が何かに生きるというよりは、最低限知っておいてそれがあから暮らしが豊かになるという教育の落とし込み方を公園としてとか地域としてどこかに入れ込む、公園で教えるのか地域活動の中で教えるのかはわかりませんが、何かに落としこんでいってもらえる仕組みがほしいかなと思います。

今西委員長：

ちなみにFBC（フラワーブラボーコンクール）はまだやっております。私も岐阜県の委員として参加しておりますので是非多くの学校が参加して頂きたいと思います。

花と緑の連携事業みたいなところで例えば行政が出前授業に行ったりだとか、いろいろなことが教育としてやれると思います。教育は子供からお年寄り、生涯学習も含めていろんな世代にやれるわけですから、その題材として公園だったり場所として公園を使ったりだとか、緑や花を題材にしたりというのはいろんな施策事業に展開ができると思います。

事務局：

いちおう岡崎市も地域花壇があり花壇コンクールをやっています。ただ、近藤委員がおっしゃるようにそこに花壇があるからやっているような形になりつつある面もある気がしましたので、現地視察の際にも花壇の場所もおかしくないとも言われていますけれども、確かにありますので、こういった意見も入れたいと思います。

2.3 市民アンケートの実施について

【説明】

【質疑応答】

松本委員：

緑の量で多いと感じるなどそれはそれで全体量として聞いて頂ければいいと思いますが、変化も聞いてもらえるといいなと思います。減った・変わらない・増えたと思うのか、実際は減ってきているのですがぜんぜん減っている感じがしないだとか、そのへんを捉えたいです。あるいはすごく減ってきていると実感しているのか、変化というのは聞いてもらいたいです。

それから1番の岡崎市の緑の量ですが、これは一般論として緑の量という総体として把握できるのかなという気がしまして、何を持って回答するのかなと思いました。要は額田に緑が多いと感じるのか、あるいは自分の周りに田んぼがあるから感じるのか、自分の周りに街路樹がないから少ないと感じるのか。果たして総体として聞いてどういう評価に結びつけるのかなと思っていました。それでしたら具体的に、街路樹の緑はどうか公園の緑はどうかとか、そう聞いたほうがいいのではないかという提案です。必ずしもではありませんが心配がありました。

それと 5 番の緑の維持管理について聞かれています、その前に公園の緑・街路樹の緑ってどれぐらい必要だと思っているのか必要性も聞いてもらえるといいなと思います。すごく必要なんだけど維持管理がされていないとか、不必要なんだけど維持管理がされているとか。街路樹なんか知らないよみたいな意見が出ると怖いのですが、そういった点も聞いて貰えたらいいかなと思います。

あともう一つ、維持管理費に対する考え方を聞いておくべきかと思います。要は単純に言うとお金がかかりますと。アンケートって啓蒙にもなりますよね。お金がかかります、大変なんです、ではあなたの考え方は？と聞いて。これは公共バスと一緒になんですけれども、お金がかかるならやめてしまえという意見、あるいはお金がかかってももっと税金で綺麗な緑を増やせ。あるいはだったら自分たちも協力するよと。その姿勢を問うのもいいのではないかと思います。

今西委員長：

質問も聞けば聞くほど項目が増えてしまって答えるほうも大変なので、そのあたりは精査をしながら、項目的には普通は 10 項目ぐらいになるかなと思います。そのあたりはまとめる工夫だとか、聞く対象物の絞込みだとかで工夫をして頂ければと思います。

松本委員：

維持管理だとかは児童には聞けないですね。

事務局：

児童に向けてというのは、より回答率がアップするかなというところで。子供にというのではなくて親と一緒に回答してね、と児童に発するのはそういう形にしたいなとは思っているのですが。

今西委員長：

児童は児童で文章を精査したり、文章表現も当然変えられと思うので工夫はしてほしいですね。

それから 6～8 番あたりまで枝番でどんどん細かいところまで聞いていますけども、聞きたい気持ちは分かりますがそこまで聞いてどうするのでしょうか。松本先生が言ったように何が自分たちはほしいから聞くんだよという所を持っていないと、聞きたい事は山ほどあるのしょうがそこでどう使えるの、と思っていないと大変になってしまうので。

中川委員：

あまり普段、日ごろは公園の事を考えて生きているわけではないので、あらためてこうやって聞かれると市民も考えてみだすんだらうなと思いますね。

今西委員長：

緑も公園だけではなくて、寺社仏閣の緑もあれば河川の緑もある。そういった対象物を分かるようにしてほしいなという気はします。それから、緑を守る部分のというか、そういう質問がないので気になるのですがね。

近藤委員はどうでしょう。

近藤委員：

先程中川委員が仰られたように、一般の人の視点からすると細かいことを言われてもよくわからない。緑があったほうがいいのか、ないほうがいいのか。今後こちらが提案すべきことをまず整理しておいて、それに対して一般の人がどう思うのかというのが拾いやすいようなアンケートにしたらいいのではないのでしょうか。

小さい頃、親御さんなんか特にそうだと思うのですが、昔はこの辺で緑がたくさんあって遊べて楽しかったが子供の世代はそれが使えない、使える緑が減ってきたというのを親御さんのほうが意識できるのではないかと思うのですが、親子でアンケートを取るのであれば親子の意思の差が見えると面白いのかなと思います。

今西委員長：

ありがとうございます。いろいろ意見を頂きましたので、少し精査して頂きながら、答える人の立場になってみて文章を書き込んだりということをして頂けると、わかりやすく答えやすくなると思いますので、どうしても硬い表現で行政的な文言になってしまうと答えづらくなってしまうので。そこだけ気を付けていただければと思います。

3. 閉会

挨拶（事務局）

以上